

令和7年度 調布市立八雲台小学校 学校経営計画（学校長 石川 淳）

学校の教育目標

◎思いやりのある子ども(心の教育の充実) ○よく考える子ども(確かな学力の定着を図る授業の充実) ○健康な子ども(体力・健康増進)

目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像

「一人一人の子どもが安心して通うことができる学校」: 人権尊重の精神を基調とし、徳・知・体の調和のとれた成長と、社会の変化に主体的に対応できる力を身に付けられるよう、調布市教育プランに沿って上記学校像を掲げその達成を目指す。

将来の日本及び国際社会の担い手として、児童に豊かな人間性・社会性を育成し、確かな学力の定着を図り、運動に親しませるなど生涯を健康に過ごすための素地を培う。「安心」とは児童が、教員からも、児童同士でも、家庭でも、自分の存在価値を認められ居場所があると実感できることと捉える。児童が自分の目標をもって学習や学校生活に取り組むことにより、困難を乗り越え、達成感を味わわせたい。そして一人一人が学校で自己の成長を実感し、自己肯定できるような「安心して通うことができる学校」を学校・家庭・地域の協働によってつくる。

ビジョンの設定理由
(本校の現状と課題)

○児童について: 児童の学力は、全国学力学習状況調査によると基礎的な知識・技能については平均的であるが、学力分布の2極化傾向がある。個別最適な学びを推進するにあたり、習熟度の高い児童への発展的な学習への指導、基礎的知識・技能が未定着である児童への確実な定着、さらには探究的な学習形態を進め、学習満足度を向上させる。生活面では、自分の感情をコントロールすることが未熟な児童が見られる。コミュニケーションスキルの向上や自己肯定感の育成が課題である。体力や健康面では運動に対する意欲の向上と、心身の健康の保持増進意識が課題である。
○教員について: 本校が初任校である教員が9名在籍している。一人一人の教師力を高めるため、授業力の向上に取り組み、同時に迅速かつ適切に保護者対応ができるよう、教職員の組織力の向上を図る。また、授業改善を常に念頭に置いて、ICT 機器を文房具のように利活用させ、カウンセリングマインドや特別支援教育の方策も取り入れて「主体的・対話的で深い学び」と「だれ一人取り残されず、児童の可能性を引き出す」教育を実践できるよう取り組む。

中期的な経営目標

- 1 心の教育の充実に向け、感情や行動をコントロールできる力を付け、児童相互の良好な人間関係を確立させ、自他を尊重する態度の育成を図る。教職員・保護者・地域の協働のもと、豊かな情操と温かい人間関係を醸成する教育活動を行う。また、小・中連携や幼・保・小連携交流等に取り組み、非認知能力の育成と安定した学びの接続・連続を目指す。
 - 2 基礎的な知識・技能の定着を基盤として、思考力・判断力・表現力を育成し、児童の学ぶ意欲を向上させる。校内研究を通して教員により良い導入、探究、協同、振り返りの在り方を身に付けさせ、授業力の向上を図る。
 - 3 体力向上・健康教育の充実に向け、運動量を確保した体育の授業と、外遊びの奨励等を通して心身の健やかな成長を育む。
 - 4 コミュニティ・スクールの導入に際して、地域の教育力、地域の人材や資源を生かした教育活動を積極的に展開し、学校、家庭、地域が目標の共有を図りつつ開かれた学校運営に取り組む。協働することで本校の子どもたちをより健全に成長させられる意識を高めていただく。
 - 5 特別支援学級・特別支援学校との交流・共同学習を推進し、インクルーシブ教育の考え方にも馴染ませていく。校内研究は、特定教科の指導方法研究のみならず、教員の授業力向上を狙い、教材観、導入、活動、振り返りの、一連の授業の流れを検討していく。
- 人・組織 教科担任制を軸として学年を単位とした学習活動を行う場面を意図的に作る。児童理解をしていく上での特別支援教育に対する理解を深め、児童の特性に合わせて指導できる教員を育成する。巡回指導教員の指導方法が在籍学級の指導にも生きるよう教員間の連携を図る。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>

| 1 豊かな心(徳) | 2 確かな学力(知) | 3 健やかな体(体) |
|--|--|---|
| (1) 取組目標 (具体的方策) | (1) 取組目標 (具体的方策) | (1) 取組目標 (具体的方策) |
| ①挨拶・言葉遣い・時間を守る等の基本的な生活習慣を家庭・地域と連携して定着させる。 | ①全学年で教科担任制或いは交換授業を行い、専門性を生かし分かりやすい学びを提供する。 | ①運動量を確保した体育科授業の実践を積み重ねる。 |
| ②道徳の授業では主体的に考え、議論する実践を毎時間取入れ、規範意識を育成する。 | ②ICT 機器や学習者用タブレットを効果的に活用し、学びを深め満足度を高める。 | ②運動を日常化し、体を動かす意欲向上のため、休み時間に児童が外遊びできるよう推奨する。 |
| (2) 成果目標 (数値目標) | (2) 成果目標 (数値目標) | (2) 成果目標 (数値目標) |
| ①基本的な生活習慣が身に付くよう家庭と学校で指導をしているという回答を90%にする。 | ①児童が主体的に取り組む学び合いや、観察・体験の授業を単元中1/3の授業で行う。 | ①運動量を確保した授業を行い、授業時間中の2/3は体を動かせるようにする。 |
| ②学校は、道徳の時間等、心の教育の充実に向けていると肯定的な回答を90%にする。 | ②全教員が1日に2度以上、ICT機器またはタブレットを活用した授業展開を行う。 | ②全校児童が、1日1回は体育の授業または外遊びできるよう全校で声掛けを行う。 |

学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>

| 4 保護者・地域との連携 | 5 特色ある教育活動 |
|---|--|
| (1) 取組目標 (具体的方策) | (1) 取組目標 (具体的方策) |
| ①年3回の授業参観や、スポーツフェスティバル、学習発表会を通して教育活動を公開する。 | ①特別支援学校・学級との交流、副籍交流の活動を、双方とも負担が掛かり過ぎないように行う。 |
| ②学校運営協議会の活動を軌道に乗せ、委員の方々に学校運営への参画意識を高めてもらう。 | ②国語科を取り上げつつ学習指導の工夫について全教員で取り組み、授業力を向上させる。 |
| (2) 成果目標 (数値目標) | (2) 成果目標 (数値目標) |
| ①学校は、授業などの公開を積極的に行っているという肯定的な回答を90%にする。 | ①各学年とも年に1回以上、直接または間接交流を行い、インクルーシブ教育を身近にする。 |
| ②PTA や地域組織と連携して児童の健全育成に努めていると肯定的な回答を90%にする。 | ②校内研究で年3回の研究授業を行い、児童も教員も学びと教授の満足感を味わう。 |

人材育成・組織運営

○教科担任制(交換授業)を実践し、学年運営について統一感を持って円滑に進めるとともに、全体指導時の学習・生活指導力を高める。
○学年会の充実やOJT、校内研究会、各種研修会を通して、学年における指導の統一とともに教員一人一人の授業力向上を図る。
○いじめ対策委、校内委の活動を活性化させ、いじめにつながる事案を早期に発見し、組織的に初動体制を整えて安心を取り戻す。